飛躍に向けてアクセル

群馬県経済

いい流れを企業の実感へ

群馬県経済に力強さが戻ってきた。昨年は富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録、県のキャラクター「ぐんまちゃん」が「ゆるキャラグランプリ」で第一位になるなど、朗報が相次いだ。産業界でも県内に完成車工場を構える富士重工業をけん引役に自動車産業が堅調。明るい話題が続き、地域経済に活気が出てきた。県でも目下のいい流れを実体経済に結びつけるを合言葉に、産業振興策を精力的に展開。「ものづくり立県ぐんま」を支える県内中小企業の活性化を強力に後押しする。15年も14年の余勢を駆って、さらなる飛躍を狙う。

次世代産業振興へ

技能者育成にも力

今の勢いを地域の経済力に結びつけようと、県も知恵を絞り、積極的に動く。15年度の一般会計は前年度当初予算比5％増の7159億6600万円。

産業関係では「次世代産業の展開支援」「国際展開の支援」「地域を支える中小企業支援」「産業人材の育成」「ものづくり産業の振興」などに注力する。

次世代産業では今後成長が期待される「次世代自動車」「ロボット」「健康科学」「環境・新エネルギー」「観光」を重点分野に位置づけ、各分野に部会を設け、振興策を推進している。3月13日には国際会議などを行う施設を核にした産業・雇用創出を目的にコンベンション関連産業部会も新設。4月1日には産業経済部内に次世代産業課を設け、重点分野での事業化を後押しする。

リーマン・ショックによる大打撃から立ち直った中小企業の多くは、従来の特定分野に依存する体質を改めようと、新分野進出に意欲的だ。その意欲を実際のビジネスに結びつけるべく、大手企業などとのマッチングや勉強会を数多く開き、新分野進出に向けた機会、情報を提供。技術力のある企業が円滑に新規分野に取り組めるよう、サポートしている。

産業人材の育成では、早速朗報が飛び込んできた。2月に千葉県などで行われた第28回技能グランプリで、群馬県の選手6人が入賞、うち二人が金賞に輝いた。

建具職種に出場した鍋谷建具店（桐生市）の鍋谷由紀一選手は金賞受賞者のうち特に優秀と認められた内閣総理大臣賞を、機械組み立て職種に出場したミツバの斎藤茂選手は厚生労働大臣賞を受賞した。

内閣総理大臣賞の受賞は97年度の第17回大会以来11大会ぶり、複数の金賞受賞は01年度の第21回大会以来7大会ぶり。入賞した選手たちに対し、吉川浩民副知事は「入賞を契機に、ますます技能を磨いていただいて、本県の産業を支え、経済発展に貢献していただきたい」とねぎらいの言葉をかけた。

ものづくり立県を支えているのは、高い意識を持って技能向上に励む県内の技能者たちだ。今回の快挙を一過性の出来事にするのではなく、意欲的に技能向上に取り組む県内の技術者を継続的に支援していかなくては、地域に高度な技能は根付いてこない。15年度予算でも産業人材の育成をテーマに掲げており、〝技能に優れるぐんま〟のさらなる盛り上がりが期待される。

企業誘致さらに推進

進出企業招き討論会

時代の変化に合わせて産業政策は変遷があるが、持続して取り組まれているテーマが企業誘致だ。地域の雇用、地域経済活性化に直結する企業誘致で、群馬県は好調に推移している。

経済産業省がまとめた13年1―12月の立地動向調査で、群馬県は立地件数が全国二位。14年1―6月の調査でも、立地件数が同二位、製造業に限れば立地件数・面積が同二位だった。都心から100キロメートル圏内という利便性に加え、関東地方の中でも圧倒的に地震が少なく、生産に欠かせない水も豊富。全国でも有数の立地実績に甘えず、さらなる立地促進に向け、動きだしている。

群馬県では、進出企業をパネリストに招いたパネル討論を開き、企業の要望を吸収。誘致戦略の改善、サービス向上に役立てている。すでに高崎市を中心とする県西部、前橋市・伊勢崎市の県央部、太田市や館林市などの県東部の進出企業を対象にしたイベントを3度開催。県の改善点を洗い出し、市町村の関係者と共有し、魅力的なサービス、対応につなげる。

行政、企業がより高みを目指し、精力的に動く群馬県。地域経済力の成長を加速させ、持続的発展への足固めを進め、飛躍につなげていく。

吉川副知事（中央）を囲む技能グランプリ入賞者。金賞受賞者二人を輩出し、群馬の高い技能を全国に大いにアピールした

医療分野への参入促進を目指し、世界的医療機器メーカーのGEヘルスケア・ジャパンの技術ニーズ説明会を県内で開催